

# 2024年度

## 情報学部小論文問題

### (学校推薦型選抜)

#### 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 問題冊子は1冊(8頁)、解答用紙は文系型2枚、理系型6枚、下書用紙は文系型2枚、理系型1枚です。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所等があった場合には申し出てください。
3. 氏名と受験番号はすべての解答用紙(8枚)の所定の欄に記入してください。
4. 小論文の問題は「文系型」(1～6頁)と「理系型」(7～8頁)の2種類です。どちらかの型を選択して解答してください。組み合わせて選択することはできません。解答用紙の選択欄は該当する型のみにもれなく「○」を記入してください。
5. 解答は指定の解答用紙に記入してください。
6. 解答用紙は持ち帰ってはいけません。
7. 問題冊子と下書用紙は持ち帰ってください。

## 文

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

平等が最も切実な問題となるのは、飲み会のお勘定の時だろう。学者たちの飲み会での支払い時は、一応教員など職持ち給料取りは多めに、大学院生などまだ専任の職に就いていない人はその半額くらい（あるいはそれ以下）支払うという風になっている（法哲学会ではね）。

一般的に、定収のある者がまだそうでない者より多く払うのは、負担の平等という点では納得できよう。しかし、職持ちの中には家のローンと子供の教育費などに縛られ、自分の自由に使える金が少ない者もいるし、一方で院生の中には月のお小遣い何十万円という富豪の子がいることもある。しかも皆でそれぞれ好き勝手に酒やつまみを注文するパターンの会だと、比較的若い院生たちはここぞとばかり美味いものをよく食べ飲むのに比べ、年寄りが多い職持ちは胃腸の調子が悪いとか医者に厳しく言われてるとかであまり飲み食いでできない場合も多い。そういう事情を考慮すると、「職持ち＝経済的に余裕あり＝多く支払う」、「院生＝経済的に苦しい＝少なく支払う（もしくは無料）」という一般ルールは、ちょっと職持ちに厳しすぎるのでは？ と思える時もある。

そんなら老若問わず同一会費の飲み放題コース制にしたらいいい、という考えもあるが、これも底なしに呑むウワバミと舐めただけでも酔っ払う下戸との間に不均衡が生ずる。

とにかく飲み会問題ひとつとっても、負担の平等問題は云々するとキリがない。ましてや税金やら各種保険料やら、否応なしに取られている金の使い道については、誰もがどこか不平等を感じているのではないだろうか。だが一人一人の事情を考慮して万人の平等を実現することはきわめて難しい、というか、できなさそうだ。

それじゃ、なぜ平等でなければならないのか？

平等とは、特定の属性に即して人の扱いを決めることだが、その属性として何を選ぶかによって人の扱いは変わる。前項で述べた飲み会の勘定問題でも、属性を〈職の有無〉にするか、〈本人の経済的な余裕度〉にするか、あるいは〈本人の飲食量〉にするかによって、各参加者の支払い額は変わってくるだろう。そしてどの属性を基準としても、必ず誰かが不満感を抱く。

そう、これが平等という考え方のややこしいところだ。みんな漠然と「平等はよいことだ」と言っているけれども、万人が納得する完全な平等状態というのは実は成立しない。なぜな

ら、ある属性に基づく平等を実現すれば、必ず他の不平等をもたらしてしまうからだ。まさに「不平等な現実のみが平等に与えられている」(漫画『呪術廻戦』の名台詞)。定収はあるけど自分の小遣いが少ない教員が、オーバードクターだがユーチューバーで大儲けしている若者の2倍支払わなければならないケースを考えてみれば、そのことは明白だろう。

しかし、それではどの属性を使えば平等という観点からみて正しいのか、複数の属性を比べてどれがより平等度が高いのか、という議論をしてみても不毛である。一個人自体にすでに複数の属性に関わる特徴が備わっていて、しかもそのあり方や程度は一人一人異なるからだ。

「お年寄りに席を譲りましょう」と当たり前のようにいわれているのは、年齢という属性に注目して、一般的に高齢であるほど身体が弱っていると考えられているからだ。だが、お金がないので一日の食事はカップ麺と菓子パン、しかもバイトの掛け持ちでもはや栄養失調、過労でふらふら状態の20歳・大学生と、83歳だが日々高級フレンチを旺盛に食べ、毎日走り、蓄えもあるのでしばしば国内外の登山に出かける人とが同一車両に乗り合わせた時、「お年寄りに席を譲りましょう」という指示を最優先する意味があるだろうか？

2019年春に当時87歳の高齢ドライバーが運転ミスで事故を起こし、何の落ち度もない母子を死なせ、多くの負傷者を出した。明白な過失運転致死傷罪容疑なのに、なぜか10ヵ月も起訴されなかった。普通はすぐに起訴されるのだが。理由は「高齢者だから健康状態を考慮し、逃走や証拠隠滅のおそれがないから」というものだった(捜査に時間がかかったともいっていたが)。この年齢属性使用はおかしい。走る凶器と呼ばれている自動車を運転する免許を与えられた人は老若男女問わず、事故を起こし人を死傷させたら、等しく起訴され処罰されることは了解済みのはずだ。ドライバーなら全員平等に負わねばならない責任を、「高齢者=弱っている=逃げない」という属性を優先させて長らく猶予したことはおかしい。

民主主義社会では「一人一票」という究極の平等があって、これは文句なく正しいと思われているようだ。しかし人のさまざまな属性を考慮するなら、国家や団体の意思決定について、人それぞれの貢献度や知識の高さなどに基づく決定権の分配をしても平等だと言うこともできる。そもそも株主総会では株式を多くもっている人ほど議決権が大きいのが当然だとされているのではないか。だから、税金を多く納めている人ほど、それに応じた複数の票をもつという制度も十分ありうるのだ。

一方で、「一人一票」も別な視点から見ると不平等に見える。なぜなら、なぜ「18歳以上」という属性が使われるのか、17歳以下ではなぜいけないのかわからないからである。日々新

聞を熟読しニュースをチェックしてこの国や世界情勢の行く末について真剣に考えている 15 歳と、新聞は新聞でもスポーツ新聞しか読まず、野球の結果とエッチな記事と芸能人の不倫にしか興味がない 45 歳と、どっちが投じる一票の方が真剣だろうか？

とにかく、どんな属性に則って平等にしても、別の属性からみると不平等になるしかないし、複数の属性に配慮したとしても、その優先順位やウェイトの置き方次第でさらなる不平等が生じる。それなら平等なんて価値を追求することはやめたらいいんじゃないか、と言い出す人がいてもおかしくないし、確かにそういう主張もある。だが、そういうわけにもいかない。なぜなら人は誰も、自分が理由なく他人より不利な扱いを受けると「不平等だ！」と怒ってしまうからだ。この怒りの感情は無視できない。完璧な平等の実現は不可能でも、社会に生きる人々は何かの点で〈不平等〉に気づき、それを是正せよと要求する。その感情がある限り、平等という価値の追求にそれなりの意味があるはずだ。

まずは、平等を、「不当に他人よりも悪い扱いを受けたくない感情」として捉えてみよう。

人は皆、自分が他人より低く扱われることを何よりも嫌がるものだ——この感情を重視するところから平等について徹底的に考え、論争を活性化させた法哲学者がいる。それがアメリカのロナルド・ドゥオーキン（1931-2013）だ。ニューヨークで弁護士として活動した後、イエール大学やオックスフォード大学、ニューヨーク大学、ロンドン大学で教授として教鞭をとった。イギリス学士院のフェローやアメリカ芸術科学アカデミーの会員も務めた。輝かしい経歴をもつ人である。

このドゥオーキンは、ロールズ\*のいう原初状態、つまり人々がゼロから政治社会を作るその出発点について、ロールズよりも平等を優先的に考える解釈を与えている。曰く、原初状態の基礎には自然的かつ抽象的な権利があつて、それは①基本的自由（思想・信仰、言論・集会・結社など）への権利と、②「誰もが平等に配慮され尊重されたいと求める権利」である。

しかし、原初状態の人々は、特定の階級のメンバーや特定の思想、能力を持つ人々を、それ以外の人々以上に配慮し尊重するような社会をけっして望まないだろう。ということで、それらの人々は、まずは何よりも前述 2 つの権利のうち、②が必ず配慮されるような政治機構を作ろうとするはずだ、という。そしてドゥオーキンはこう述べる、「平等に尊重されることへの権利は、原初状態への参加が許されるための条件である」。どんな社会であれもちろん自由権も大事だが、それよりも優先されるべきなのは政府が人々を平等に配慮し尊重することなの

だというのである。

政府が人々に対してなすべき配慮とは、人々に苦痛や挫折を感じさせないように扱うことであり、尊重とは、人々が自分で選択した生き方を貫けるようにすることである。ドゥオーキンが強調するのは、政府は人々が、所得の高低、性別・人種の違い、技能や心身障がいの有無・程度などの事情によって、他人より劣った扱いを受けていると感じ苦しむことがないようにしなければならない、ということである。ドゥオーキンが、前項でふれた「不当に他人よりも悪い扱いを受けたくない感情」にとりわけこだわっている意味がわかるだろう。こうして彼は、この感情にたえず気配りしながら、さらに人々が各自の自由選択に従って生きるために必要な資源の分配の平等について考える。

他人より自分が低く扱われるのは絶対に嫌だ、という人間感情は、さらに、他人が持っているのに自分が持っていない物について「ああ羨ましい。あれ欲しいな～」と願う羨望にもつながる。この気持ちは日本人ならよくわかるだろう。1960年代の高度経済成長期には、いわゆる「3C」（カラーテレビ、自動車、クーラー [エアコン]）を手に入れることが全国民の夢だった。別にこれらを持っていないからといって人間として劣っている訳では全然ないのだが、「お隣さん、カラーテレビ買ったらしいわよ。うちはまだ白黒で恥ずかしいわ、あなた」とか、「〇〇君ちに行ったらクーラーってのがあってすごく涼しかったよ。いいなあ、うちにもあればもっと勉強するのにな～、ねえパパ」とか家族にせがまれて、ボーナス握りしめて電器店に走った人々が多かったのである。

現代だってそうだ。新型スマホが発売される度に買い換える。これまでのヤツがまだ使えるのに。ガラケーだって使えるのに、「何か時代遅れみたいでかっこ悪い」と無理してスマホに乗り換える。しかしいろんな機能が使いこなせず、月々の料金も高いし……ということで、結局ガラケーに戻る始末。

ドゥオーキンの平等論で面白いのは、政府が国民に資源を平等に分配すべきだというときに、この「他人が持っている物が羨ましい」という気持ちも考慮に入れるべきだとしているところである。そこで彼は、真の資源の平等を実現するための方法として、次のような空想をめぐらす。

難破船の多数の生存者が資源の豊富な無人島に漂着した。これからはばらばら皆、この島で生活せねばならない。そこで彼らは、その島にある諸資源（ヤシの木、魚がいる岩場、作物が

採れる土地など)を平等に分割したいと考えた。さて、どうする？

彼らはまず全員、貨幣の代わりになる貝殻を同数持つ。そして、とりあえず今自分が手に入れうる資源をどんどん所有する。全員が資源の集まりを所有したら、今度はそれらを競売にかけなのだ。そして、全部の資源がいったん売りさばかれる。

しかし、ここで終わりではない。とりあえず購入した資源が要らなくなった、もっと欲しいものが出てきたなどの理由で、また売りに出し、買い取る人々が出てくる。こうして競売は続き、この長い過程の末に、全員とも「自分が持ついろいろな資源の束よりも、他の誰かの資源の束の方が羨ましいと思わない状態」に至る。これこそが資源の平等状態だ、と。

トレーディングカードをイメージしてもらおうとわかりやすいだろう。スポーツ選手、アニメ、アイドルなどを題材とした数百種類のカードが作られ、それらの複数枚が中身の見えない袋に封入され、パックと呼ばれて売られている。愛好家はまずはパックをひたすら購入し、その後、各人は自分の収集目的によって手持ちのカードを他の人々と取引する。そしてコンプリートしたら、もう他の人のコレクションを羨ましいとは思わなくなる。

ドゥオーキンが言いたいことはこうだ。個人はどのように生きるかについて、それぞれ異なった価値観や嗜好を持っている。ある人はたくさんの食料や快適な小屋を入手するために朝から晩まで労働する生き方を好むし、別な人はその日暮らして絵を描いたり歌ったりと好きなことをしながら生きていきたい。このように、生き方の違いによって必要な資源が人によって異なる。各人にとって必要な資源は市場における取引で最終的に入手され、「他人の所有物を羨ましく思わなくなる」まで競売すれば、真の平等が実現されるのだ。

出典：住吉雅美『あぶない法哲学 常識に盾突く思考のレッスン』

(講談社現代新書 2020年)

(出題の都合上、原文の表記を変更した箇所がある)

※ ジョン・ロールズ (1921-2002)

= アメリカの哲学者であり、正義について研究し、現代の正義論論争の口火を切ったことで有名である。

**文** 問1 ドゥオーキンの考える「平等」とはどのようなものか。本文にそくして説明しなさい。(400字程度)

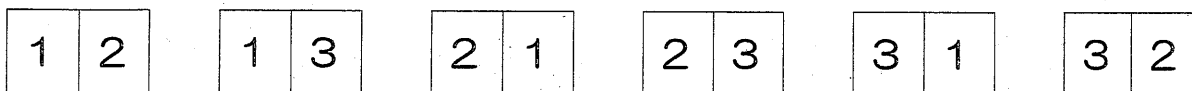
**文** 問2 下線部で著者は、民主主義社会における「一人一票」制の正当性に言及しているが、あなたは「一人一票」制を「平等」な制度と考えるか。本文にそくして平等の必要性をふまえて説明しなさい。(600字程度)

理

問 1 次の文章を読んで、問 1-1, 1-2, 1-3, 1-4 に答えよ。

$m, n$  を正の整数とする。横  $m$  行、縦  $n$  列に配置されたそれぞれのマスに、1 から 3 の数字のうち 1 つを入れることを考える。ただし、辺で接した隣り合うマスには、互いに異なる数字が入るものとする。

例えば、 $m = 1, n = 2$  のときは、以下に示す 6 通りの入れ方がある。



問 1-1  $m = 1, n = 3$  のとき、数字の入れ方の総数はいくつか。

問 1-2  $m = 1, n = 10$  のとき、数字の入れ方の総数はいくつか。その理由を含めて述べよ。

問 1-3  $m \geq 1$  に対して、行数を  $m$ 、列数を 2 としたときの、数字の入れ方の総数を  $a_m$  とおく。

(a)  $m \geq 2$  に対して、 $a_m = 3a_{m-1}$  を満たすことを説明せよ。

(b)  $a_m$  を  $m$  を使った式で表せ。

問 1-4  $m = 3, n = 3$  のとき、数字の入れ方の総数はいくつか。その理由を含めて述べよ。



## 理

問 2 次の文章を読んで、問 2-1, 2-2, 2-3, 2-4, 2-5 に答えよ。

ある大学のある学部のある学科に所属する 60 人の学生について、講義 1, 講義 2, 講義 3 の単位修得状況を調べたところ次の結果を得た。

- 講義 1 の単位を修得した学生は 32 人
- 講義 2 の単位を修得した学生は 23 人
- 講義 1 と講義 2 の両方の単位を修得した学生は 13 人
- 講義 2 と講義 3 の両方の単位を修得した学生は 13 人
- 講義 1 と講義 3 のうち少なくとも 1 つの単位を修得した学生は 43 人
- 講義 2 と講義 3 のうち少なくとも 1 つの単位を修得した学生は 32 人
- 講義 1, 講義 2, 講義 3 のすべての単位を修得した学生は 6 人

問2-1 講義 3 の単位を修得した学生の人数は 22 人となる。その理由を述べよ。

問2-2 講義 1 と講義 3 の両方の単位を修得した学生の人数は 11 人となる。その理由を述べよ。

問2-3 講義 1, 講義 2, 講義 3 のうち 2 つだけの単位を修得した学生の人数は何人であるか。その理由を含めて述べよ。

問2-4 講義 1, 講義 2, 講義 3 のうち 1 つだけの単位を修得した学生の人数は何人であるか。その理由を含めて述べよ。

問2-5 講義 1, 講義 2, 講義 3 のいずれの単位も修得しなかった学生の人数は何人であるか。その理由を含めて述べよ。